



第 32 号

(年 2 回発行)

発行所
喜多流大島能楽堂
 〒720-0814
 広島県福山市光南町2-2-2
 TEL 084-923-2633

新作能「福山」

能楽シテ方 喜多流

大島 衣 恵

明年七月十六日、福山市の市制一〇〇周年を記念して新作能「福山」を創作初演する運びとなりました。福山市をはじめ経済界や教育関係の方々にもお力添えを頂き、実行委員会を立ち上げて準備を進めているところです。

福山は約四百年前、初代藩主の水野勝成公がこの地に城を築き海を埋め立てて町を作ったことにはじまります。勝成公は喜多流の能楽を嗜み、中でも義経の活躍ぶりを描いた「八島」を好んで自らも舞われたという記録が残っています。能以外にも様々な文化芸能を愛好する文武両道の名君でありました。その勝成公がこの地を福あるところすなわち「福山」と名付けた思いを改めて見直し、新作能を通して受け継ぐこ

とが出来ればと思っております。

また、幕末に老中首座として日本の能取り役を務められた阿部正弘公にも登場いただく筋立になっていきます。開国か攘夷かという難しい選択を迫られた時代、多くの人々の声に耳を傾け、最善の道を模索され続けました。身分にかかわらず能力ある若者を育てることが未来を拓く力になるという信念のもと、教育に多大な力を注がれました。中庸の「誠は天の道なり」之を誠にするは人の道なり」から名付けられた藩校「誠之館」は今も多くの若人がその伝統を受け継いでいます。曾祖父・二代目寿太郎、また祖父・三代目久見もその学び舎で自らの志を高めた一員です。今なお絶えることない正弘公の人づくりへの思いを感じて頂ける能にしたいと考えています。

地元福山を題材にした最初の新作能は曾祖父・寿太郎作の「輛浦」です。約一〇〇年前の大正六年に初演しています。また平成十四年には帆足正規先生作、父・政允節付けで「輛のむろの

- P2 この頃思ふこと 前川光長
- P4 家名を継ぐ 江崎欽次朗
- P6 大成功だった喜多流能楽公演 清水厚實
- P8 捜真小学校での「お能体験授業」 水野佳羊子

木」を創作、国立能楽堂での初演以来、福山でも数度再演しています。

三作目となるこの新作能は勝成公と正弘公の志を継ぎ、大きな節目を迎えた福山の町を祝した目度い能として創作しています。将来にわたって多くの方に愛され親しんで頂ける能になるよう、初演の日に向けて工夫を重ねてまいります。皆様ににご高覧頂きますよう心より願います。申し上げます。



2015.4.19 大島能楽堂にて 撮影 神田佳明

この頃思うこと

能楽太鼓方 金春流

前川光長

先日、片山九郎右衛門(清司)さんのご子息
清愛君(六年生)の能「鷲」のお披露があり、
お相手をいたしました。

少年の「鷲」というのは、たいへん稀なもので
ですので、お相手をさせていただくという機会
に巡り合うというのも、また稀な事です。

私の初舞台も、名古屋にて、先代藤田清兵衛
重孝三十七回忌追善会に於いて、能「鷲」を、
藤田昭彦(現、六郎兵衛)さんと共に披かせて
いただきました。昭和三十八年五月十九日、シ
テは金剛永謹さん、六年生、藤田昭彦さんが四
年生、私が五年生でした。小鼓は田鍋惣太郎さ
ん、大鼓は亀井俊雄さんでした。

初舞台が、このような機会に恵まれましたの
も、祖父前川宗閑が、田鍋惣太郎さん、亀井俊
雄さん、先代藤田六郎兵衛さんと親しくさせて
いただいていたおかげ、そしてまた、生まれた
家のおかげと思います。



まえかわみつなが
前川光長氏

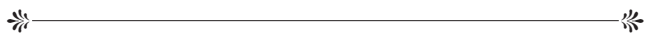
能楽太鼓方金春流

1952年 京都市に生まれる

祖父前川宗閑、22世金春惣右衛門国長に師事。

1963年 初舞台「鷲」名古屋熱田神宮能楽殿、
先代藤田清兵衛重孝37回忌追善会

1989年 京都市芸術新人賞受賞
一般社団法人京都能楽囃子方同明会理事長
重要無形文化財総合指定保持者



シテ 梅若六郎
ワキ 福王和幸
笛 相原一彦
小鼓 林光寿
大鼓 河村大
太鼓 前川光長

第50回記念 同明会 能「道成寺」平成17年2月26日 京都観世会館 撮影 ウシマド写真工房

それまでも、お社中の素人会の祖先祭、新年会、浴衣会などで、独調は打っていました。この初能を機にお稽古の質も量も変わっていきましました。大変な思いもしましたが、子供ながら、自分自身の意識が変化していったように思いません。そして、これをきつかけにいろいろとお声をかけていただくようになりました。たくさん諸先輩に可愛がっていただきましたが、なかでも先代大江又三郎さんには当時の催しの多くにお役をいただきました。また若く未熟ながら、いろいろな曲を打たせていただいて、背伸びしつつも懸命に勤めたものでした。また、河村和重さんと同級生であつたということもあり、河村さんの方達には、めずらしい曲も含めて数多くの経験をさせていただきました。そして先代金剛宗家には、永謹さんの稽古能を始められるにあつて一緒に勉強をさせて下さいました。十代から二十代にかけてのこの数々の経験が、私にとつて大変貴重な勉強になり、力になったと思います。

その後も、数えるときりがないほど、たくさんの方々のご縁に恵まれて多くの舞台を勤めさせていただき、今日に至っております。

私達は、その時々のお稽古はもちろんのことですが、舞台での経験が何より大きな力になっていくと思います。それには背伸びをしなければならぬ時期もあり、またそれをさせてもら

えるように力をつけなければならぬ時期があり、思えば当時、きつと諸先輩方にはいろいろな思いをしながらひっぱって下さっていたのでした。今、自分がそういう立場、年齢となつてきて、やはり、私も、一つ一つ口に出して言う事はなくても、その時々のお稽古を勤めながら、良い舞台を作っていくことにより伝えていくものだと思います。

年齢と経験を重ねていくと、それによる力はもちろん大きくなりますが、視野が広がることによりいろいろなものが見えたり、考えるようにもなります。それは前向きであるばかりではなく、非常に後ろ向きであつたりすることもあります。更に誰でも肉体的には徐々に後退していきます。そこでそれらの不安感を払しょくするのに大切なことは、やはりお稽古につきると思えます。かつて、先代金剛宗家がいつも謡本を手にしておられた姿、河村隆司さんがいつも鏡の前でかまへの確認をしておられた姿、を思い出します。おそらく多くの先輩方もそのように自分なりのお稽古を続けてこられていたのだでしょう。

私もそのような意識を持つことにより、年齢と経験を積んでいくことは、若い時には知らずに過ごしたさまざまなものが見えて更に楽しく幸せな時、といえる境地になるようにこれからも前進していきたいものです。



先代藤田清兵衛重孝37回忌追善会 能「鷲」 昭和38年5月19日 熱田神宮能楽殿

シテ 金剛永謹
ワキ 西村弘敬
王 豊嶋弥左衛門
笛 藤田昭彦(現・六郎兵衛)
小鼓 田鍋惣一郎(代役)
大鼓 亀井俊雄
太鼓 前川光長

家名を継ぐ

能楽ワキ方 福王流

江崎 欽次郎



えさききんじろう
江崎欽次郎氏

1973年11月29日生まれ

能楽師 ワキ方福王流

能楽協会神戸支部 常議員

重要無形文化財総合指定保持者

7歳の時、姫路城薪能にて初舞台

元禄時代より続くワキ方江崎家12代目

初代江崎金治郎は京都に住み、後姫路城主、本多中務政武公より姫路城のお能御用を仰せつけられ、姫路に移り住む。

関西を中心に能舞台に出演し、能楽の普及につとめる。

姫路こども能楽教室など、次世代への能楽の指導にも力を入れ、能楽の魅力を幅広く伝える。

平成27年3月 江崎家当主継承 12世江崎欽次郎襲名

姫路市飯田在住

江崎家は元禄時代より続くワキ方の家です。初世・正左衛門が元禄八年(一六九五年)に姫路藩主・本田忠国のお抱えとなり、滋賀の膳所より移り住んで以来、代々姫路で暮らしております。

現在は福王流ですが、初世は春藤(しゅんど)流のワキ方として舞台、謡の教授をしていました。しかし、播磨が福王流の御膝元ということもあり、二世・正左衛門は福王家七世・茂右衛門盛信(服部宗碩)から九世・茂右衛門盛勝までの福王家歴代より脇方の興義二十五ヶ条および伝授脇の口伝を授かりました。

江崎家の当主名「キンジロウ」は六世・金次郎より引き継がれているものです。六世は元は姫路の小森家の人でした。当時、福王流の江崎家と中村家には後継者がおらず、小森家の長男を江崎家へ、次男を中村家(中村弥三次郎)へそれぞれ養子に迎え入れたのです。二人の息子を養子に出したために小森家は絶えてしまいました。したが、江崎・中村の家を繋いで下さった小森家のお墓は、今でも拙宅がお守りさせていただいております。

その後、七世・金次郎の時に明治維新を迎え、江崎家は「お抱え役者」の役目を失いますが能楽師としての活動は継続されました。また、八世は「文次郎」を名乗り、明治維新以後の能楽

衰微の時代に伝書などを数多く残しました。

九世は体が弱く、強くなるようにとの願いを込めて文字を「欽次朗」とし、十世は何でも一番になることが好きな性分だったようで「次」を使わない「金治郎」に改めたと聞いております。十一世は十世の「金治郎」をそのまま受け継ぎました。

私事になりますが、今年三月に江崎の家督を父より譲り受け、十二世・欽次朗を襲名させていただきました。初世より続く江崎家十二代目という歴史の重みをひしひしと感じております。

「欽次朗」の文字は曾祖父(九世)から継承いたしました。九世の命日と私の誕生日が同じ日付、また、干支も同じ丑年ということで「丑が死んで丑が産まれた」「九世の生まれ変わり」と幼い頃から言われていた記憶が頭から離れなかつたためです。また、自分で申すのも恥ずかしいのですが、控えめな自身の性格に「金」よりも「欽」の字の方が似合っているように思います。

襲名にあたっては、おこがましくも襲名披露能を今年の三月七日に湊川神社神能殿で催させていただきました。福王御宗家をはじめ、京阪神の諸先生方にご出勤賜り、父は「安宅」、私は「鷲」、長男太郎は初ワキとして「合浦」と親子三代でワキを勤めさせていただきました。

稽古をする息子の姿を見ると、江崎の家が今まで続いてきたことの重みとありがたさをつくづくと感じました。

先日、「継承者を育てる意識が周囲にあつて初めて後世に伝えられていく」という一文を目にしました。

大島先生より光信寺新能にお声掛け賜る御縁で仲良くさせていただいております井上松次郎さんが、新能の舞台で「子息の蒼大くん」と共演されたり、伊織くんを政允先生や衣恵さん、輝久さんがご指導されていたりと、私たち世代は早くも次世代への継承を意識しなければならぬ年齢になってきたのかと考えるようになりました。

これからの世代は私たち以上に能楽師として生きにくい時代になるかもしれませんが、能楽のこころを途絶えることなく大切に繋いでいけるよう、自らも斯道に精進するとともに能楽の普及と繁栄に一層努めて参りたいと思っております。



あじさい能 能「鳥追舟」平成25年6月22日 上田能楽堂

シテ 上田拓司
ワキ(日替) 江崎正左衛門
ワキ(左近尉) 江崎欽次朗
子方 江崎太郎
笛 八木原周平
小鼓 古田知英
大鼓 大村滋二

大成功だった喜多流能楽公演

— 福山大学開学四十周年行事で —

学校法人 福山大学 理事長 清水厚實



学校法人福山大学では、平成二十七年に福山大学開学四十周年を迎えることから、二年前の平成二十五年十月に「福山大学開学四十周年記念行事実行委員会」を組織し、委員長に富士彰夫副学長を委嘱して委員会を開き、具体的な行事計画を立てて進めることになりました。

委員会としては過去の周年行事を参考に、慎重に検討した結果、行事計画として第一部記念式典、第二部記念講演、第三部記念能楽公演、第四部祝賀会の四行事を行うことに決定しました。そして、講演については文部科学事務次官または高等教育局長に依頼すること、能楽公演は地元喜多流大島能楽堂大島政允氏に依頼することなどを決定し、その準備を進めることになりました。

特に能楽公演については、福山市の地元全国でも有数の規模を持つ喜多流大島能楽堂があり、大活躍されていることから、日本の大事な

伝統芸能である能狂言について、改めて学生、地元の皆様など参加者に観能していただきたいとして、富士実行委員長、鈴木省三常務理事らが大島政允氏と交渉を重ねた結果「大学の学生や地元の皆様に能楽についてご理解していただくため喜んでお引き受けいたします」とご快諾をいただきました。

大島氏はその後、多方面の方々と交渉を重ねられた結果、仕舞「高砂」大島政允氏、能「羽衣」シテ(天人)人間国宝の友枝昭世氏、ワキ(白龍)森常好氏、大鼓・國川純氏、小鼓・成田達志氏、太鼓・前川光長氏、笛・人間国宝の一噌仙幸氏に、さらに後見二氏、地謡八氏を決定していただきました。

そして平成二十七年六月二十七日を迎え、「大学会館」において「福山大学開学四十周年記念行事」が盛大に挙行されました。

第一部の記念式典では、清水厚實理事長はじ

め、松田文子学長の挨拶の後、福山大学名誉学長称号授与として、大学の開学以来四十年にわたり、大学の発展に貢献された松本卓臣福山商工会議所名誉会頭はじめ、歴代学長の西崎清久、吉永昭、牟田泰三の各氏に称号が授与されました。

次に来賓祝辞として下村博文文部科学大臣(代読・吉田大輔文部科学省高等教育局長)、羽田皓福山市長、石田恒夫日本私立大学協会副会長兼中四国支部長、安原宏成広島県公立高等学校長会福山支部長の祝辞をいただいたのち引き続き「福山大学の歌」の斉唱、富士実行委員長の挨拶をもって第一部を終了しました。

第二部の記念講演では、吉田大輔文部科学省高等教育局長により「高等教育における課題と展望」として、これからの日本の高等教育についての展望、特に私立大学の在り方についての詳しい解説などがありました。



能「羽衣」シテ友枝昭世
大鼓 國川純氏 小鼓 成田達志 ワキツレ 森常太郎



仕舞「高砂」大島政允
地謡 大島輝久 狩野了一 長島茂 金子敬一郎



第三部の「喜多流能楽公演」では、はじめに喜多流大島能楽堂の大島衣恵氏(学校法人福山大学評議員)により、仕舞「高砂」と能「羽衣」についての詳しい解説がありました。学生や近隣の皆様など参加者には、はじめて能楽公演を観能する人も多かつたため、解説は初心者にもわかりやすく、歯切れのよい説明で、改めて日本の六百余年にわたる伝統芸能「能狂言」について強い関心と興味をそそる内容でした。能楽公演には一三〇〇人近くの人が出席し、

仕舞「高砂」、能「羽衣」の演能にすっかり魅せられました。終わったあとの感想では「初めて能狂言を観て、非常に感動した」とか、「日本にこんなに素晴らしい伝統芸能があることを初めて知った」また、「福山の地元になんて立派な喜多流のあることを知って、とても嬉しい」などといった感想が多く、四十周年行事として能楽公演を行ったことが、学生のためにも地元の皆様のためにも、大変よかつたと喜んでいるところであります。

第四部の祝賀会では清水理事長の開会の挨拶に続き林克士福山商工会議所会頭、小出秀文日本文立大学協会常務理事兼事務局長の祝辞をいただいたのち、吉田高等教育局長他十九名により三樽の鏡開きが行われました。

引き続き池田晃治広島銀行取締役頭取による乾杯、そして開宴となりました。

会場では福山大学箏曲部による琴の演奏、三蔵太鼓を打つ会による三蔵太鼓の演奏が行われました。琴の演奏は、一年前に発足した箏曲部の部員が一年間の稽古の成果を、また太鼓の演奏では、全国各地から三蔵太鼓を打つ会の卒業生が参加し、盛大に三蔵太鼓を打ち鳴らしました。

最後に大谷巖副理事長の閉会の挨拶をもって無事全行事が終了することになりました。

捜真小学校での「お能体験授業」

水野佳羊子

みずのかよこ
水野佳羊子氏

1974年(昭和49年)生まれ
青山学院大学卒業
横浜市 私立捜真小学校教諭
父は水野家第20代当主 水野勝之(かつゆき)
霞会館常務理事



水野節子
水野佳羊子
大島衣恵
大島輝久

水野牧子
水野勝之

今年の六月二十九日、横浜にあります捜真小学校で、大島衣恵さんをお招きして、六年生が体験授業をさせて頂きました。子ども達にとつて、一生に一度の大切な体験の時となりました。感謝してご報告させて頂きたいと思えます。

【出会い】

衣恵さんとの出会いは、この春のことでした。その日、衣恵さんと出会うということも、そして、その三ヶ月後に私の勤務致しております捜真小学校にいらして頂いて、授業をして頂くことも、夢にも思っておりませんでした。

三月下旬、妹の節子を訪ねに福山を訪れました。たまたま初日の夜、妹がお能のお稽古があるので、見学に来ないかと誘いを受けました。「お能のお稽古?」「お能にお稽古があるの?」不思議に思いつつ、興味を持って大島能楽堂にお邪魔させて頂きました。なんと妹が謡を習い、舞の稽古をしているではありませんか。そこで教えて下さっていたのが、大島衣恵さんです。凛とした素敵な方で、お腹の底から出てくる深く響くお声に驚きました。

しばらくお稽古を拝見させて頂いた後、衣恵さんの活動を少し伺う中で、公演以外に大切になさっていらっしゃることに、様々な方々に能を知って頂くための普及や教育活動をなさっているということでした。それを聞いて飛びつき、

衣恵さんに是非、本校にいらして頂き、子ども達に本物のお能に触れてもらいたいと思ひ、早速、連絡先を伺いました。これが最初の出会いです。

【授業】

新学期を迎えて、早速、校長に許可をもらひ、隣のクラスの先生とも相談して、六月末、衣恵さんが東京にいらつしやる時に、横浜にもいらして頂く手筈が整いました。

四時間目、まずは六年生全員と数名の保護者の方が、袴姿の大島衣恵先生にお能についてレクチャーして頂きました。能の歴史や曲目、喜多流大島能楽堂について、福山と能や海外公演のことなど、画面に映し大変分かりやすく教えて頂きました。

子ども達が一番驚いていたことは、レクチャーの一つ「謡ってみよう」で、今まで優しいお声でお話して下さっていた衣恵先生のお声が急に変わったことでした。どうやったたらそんなに低くても大きい声が出るのか、不思議だったようです。衣恵先生の声に続いて、全員で「高砂」を謡ってみました。今度は私が驚いてしまいました。子ども達がこれほど大きく、安定感のある深い声を出せるとは！

お昼は衣恵先生を交えて楽しくお弁当を頂き、五時間目・六時間目、それぞれ一組・二組が集

会室で、実際にお能を体験させて頂くことになりました。

まずは座り方、立ち方、歩き方。毎日当たり前にしていることでも、集中して、意識的によい姿勢をすることによって、こんなにも、美しい姿になるものだと、子ども達の様子を見ながら感じました。姿勢をよくすることだけでも、子ども達が大きく立派に見えました。印象に残ったのが先生専用のお面を、代表の子どもが被らせて頂いたことでした。(後でその児童に聞いた感想では、お面を被ることで視界が悪くなり、そのまま歩いたり踊ったりするのは大変なことだと言っておりました。)

最後には、扇を持ち、実際に謡いながら舞ってみました。すり足で、謡を謡いながら体を動かす難しさを感じていました。

【子ども達の感想】

☞先生が見本でうたって下さった高砂の一部分を聞いた時、びっくりしました。私はお能のうたを実際にきいたのが初めてで、声のトーンや声のふるえ、全てが私の想像以上でした。先生のお面を見せてもらった時、本当に下を向いたら悲しい顔、上を向いたらうれしそうな顔に見えたのですすごいと思いました。私もお面をかぶってみましたかったです。

☞昔の人々の知恵、そしてその時代の技術がた



くさんつまつた踊りなのだと改めて実感しました。舞の歩き方、お面をかぶる前のお作法、細かい所できつちりと決めてあるということは、今回初めて知りました。そんなお能をして、他の国や次の時代へ残していく、そんなことをしている大島先生はとてもすごいと思いました。本当に貴重な体験が出来ました。

☞私は、大島先生の普通に話している声とお能をなさっている時の声が全然違って、あんな声が出せるなんてすごいと思ひ、驚きました。それから、お能を実際にやってみて、扇子の使い方や歩き方が、意外に難しくくて、あまりうまく出来ませんでした。なのに、大島先生は謡いながら舞っていたので、すごいと思いました。

体験授業の一ヶ月程前に、歴史の授業で室町文化・能について学習したのですが、その時ビデオを見ても、ポカンとしてあまり反応がなく、知識としてだけ学習をし、特に興味を持たなかった子ども達が、短い体験学習の中で、大島先生から、お能の素晴らしさや深さを実感していることを、感想を読みながら感じました。私が思う以上でした。載せさせて頂いた感想は一部でしたが、他にも多くの子ども達が質問をし、「お面は何種類?」「どうやって謡を覚えるのですか?」「能楽師になってよかったです」とは何ですか?」等々ありました。「お能を調べてみたい。観に行きたい。また教えてもらいたい。」「お能のことを知ることが出来てよかった」とほとんどの子ども達が感想に書いていました。大島先生に憧れた子ども達も多くいたようでした。

【歴史の流れ】

この様に子ども達が滅多に出来ない経験をさせて頂き、日本の伝統文化に触れることが出来たことは、よいタイミングに恵まれ、ふとした出会いから、わざわざ横浜に足を運んで下さった衣恵さんや、そして機会を与えてくれた先生方のお陰だと思います。

ただ、他にも、こうなる様に導かれた、何か不思議な流れがあった様にも思います。その流

れはもしかすると何百年に渡る歴史の流れの一つであったかもしれません。

福山の初代藩主であった水野勝成公が能を好み、自分でも舞い、戦場にも能舞台を持ち運んでいたと聞いております。(妹がお能を習い始めたのも、お能を習うことで、時を隔てて勝成公が感じた能の素晴らしさを実感したいということだったようです。)

その福山の地で、様々な歴史を経て、現代にも伝統を受け継いでおられる大島家の皆様。その皆様に会えたのは、勝成公が導いてくれたお陰のように感じます。

この出会いの喜びはさることながら、子ども達が日本の文化の一つに触れ、そのことに感動を覚えている姿も大きな喜びでした。これからきつと、お能に触れる機会があるとは思いますが、その時に、大島先生と過ごした時間を思い出してくれることでしょうか。そこからまた日本の良さを見つけ出していつてくれることを期待しております。

また私自身もここから更に、お能を通して様々な方々と出会い、お能だけでなく、様々な日本の伝統文化に触れる機会を増やしていくことが出来たら嬉しく思っております。





能「阿漕」シテ大島政允 (2015.4.19) 大島能楽堂
後見 大島輝久 太鼓 大川典良 小鼓 吉阪一郎

撮影 神田佳明



能「湯谷」シテ大島衣恵 (2015.4.19) 大島能楽堂
大鼓 亀井広忠

演能ご案内

2015年

| 開催日 | 催し名 | 開演 | 会場 | 鑑賞料 | 演目 |
|-----------|--------------------|-------|----------|---|---|
| 9月20日(日) | 第243回 大島能楽堂定期公演 | 12:30 | 大島能楽堂 | 年間優待券4回分 20,000円 一般券 6,000円 学生券 2,000円 | 能「東岸居士」金子匡一 狂言「お茶の水」茂山茂 能「紅葉狩」大島輝久 |
| 10月18日(日) | 福山総合文化祭秋の会 | 12:00 | 大島能楽堂 | 無料 | 素謡・仕舞等 |
| 10月21日(水) | 燦の会 | 18:45 | 東京喜多能楽堂 | S席 5,000円 | 能「井筒」大島輝久 |
| 11月12日(木) | はじめての能楽大会 | 13:00 | 岡山後楽園能舞台 | 無料 | 能学習発表・能鑑賞 |
| 11月15日(日) | 第244回 大島能楽堂定期公演 | 12:30 | 大島能楽堂 | 年間優待券4回分 20,000円 一般券 6,000円 学生券 2,000円 | 狂言「萩大名」茂山千五郎 舞囃子「烏頭」友枝昭世 お話 帆足正規 能「江口」大島政允 |
| 11月23日(祝) | 広島大島会 | 11:00 | 妙慶院 | 無料 | 素謡・仕舞等 |
| 12月20日(日) | 喜多流職分自主公演 | 12:30 | 東京喜多能楽堂 | 一般券 6,000円 | 能「橋弁慶」大島輝久 |

2016年

| | | | | | |
|-----------|------------------------------|-------|------------------------|---|----------------------------|
| 1月3日(日) | 新春能楽祭 | 12:00 | 沼名前神社 | 無料 | 素謡「翁」奉納 |
| 1月16日(土) | 瀬戸内文化のにぎわい | 13:30 | アステールプラザ能舞台 | 700円 | 能楽ワークショップ |
| 1月17日(日) | 喜多流新年初謡会 | 11:00 | 喜多流大島能楽堂 | 無料 | 素謡・仕舞等 |
| 3月27日(日) | 宗吉史跡能 | 16:00 | 三豊市宗吉瓦窯跡 | 無料 | 能舞「高砂」大島衣恵 |
| 4月17日(日) | 第245回 大島能楽堂定期公演 | 12:30 | 大島能楽堂 | 年間優待券4回分 20,000円 一般券 6,000円 学生券 2,000円 | 能「草紙洗小町」大島政允 |
| 5月15日(日) | 喜多流春の会 | 11:00 | 喜多流大島能楽堂 | 無料 | 素謡・仕舞等 |
| 6月4日(土) | 燦の会 | | 東京喜多能楽堂 | | 能「高砂」大島輝久 |
| 6月19日(日) | 第246回 大島能楽堂定期公演 | 12:30 | 大島能楽堂 | 年間優待券4回分 20,000円 一般券 6,000円 学生券 2,000円 | 能「西行桜」金子匡一 能「小鍛冶」白頭大島衣恵 |
| 7月16日(土) | 福山市市制施行100周年記念 新作能「福山」初演会 | 14:00 | ふくやまりーデンローズ 大ホール | 未定 | 新作能「福山」大島政允 |
| 8月7日(日) | 三和の森光信寺薪能 | 18:30 | 光信寺 | 鑑賞券 3,000円 | 能「未定」 |
| 9月18日(日) | 第247回 大島能楽堂定期公演 | 12:30 | 大島能楽堂 | 年間優待券4回分 20,000円 一般券 6,000円 学生券 2,000円 | 能「浮舟」大島衣恵 能「熊坂」松井彬 |
| 10月16日(日) | 福山総合文化祭秋の会 | 11:00 | 大島能楽堂 | 無料 | 素謡・仕舞等 |
| 11月20日(日) | 第248回 大島能楽堂定期公演 | 12:30 | 大島能楽堂 | 年間優待券4回分 20,000円 一般券 6,000円 学生券 2,000円 | 能「巻絹」大島政允 能「昭君」大島輝久 |
| 12月18日(日) | 喜多流自主公演 | 12:00 | 東京喜多能楽堂 (全席指定席 要予約) | 年間優待券5回分 35,000円 | 能「車僧」大島輝久 |
| 12月23日(祝) | 大島久見13回忌追善能 | 12:30 | 大島能楽堂 | 正面指定席 12,000円 脇指定席 10,000円 | 能「経政」大島伊織 能「道成寺」大島衣恵 |

喜多流大島能楽堂

〒720-0814
広島県福山市光南町2-2-2
TEL 084-923-2633
FAX 084-923-8730
<http://www.noh-oshima.com>

編集デスクより

今夏、大島能楽堂へ珍しいお客様方をお迎えしました。一組は広島県内の14名の市長様と随行者の方々。もう一組はヨーロッパで活躍されているベルギー人カメラマンとコーディネーター。そして、もう一組は小学校、中学校の現場で活躍されている教職員約80名。普段の体験学習ではなく、それぞれのご希望にそえるようにプログラムを色々工夫し実施しましたが、喜んでいただけたでしょうか。(大島泰子)